

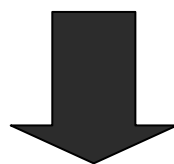
ワクチン普及・啓発への 提言・意見

2007年7月13日

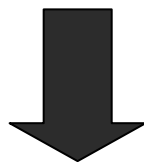
日本製薬団体連合会
社団法人細菌製剤協会

目指すゴール

国民を感染症から守る観点から、小児、思春期、成人、高齢者に至るまでの幅広く予防接種を普及・啓発する



企業のワクチンビジネスへの投資意欲の醸成



ワクチン産業のスパイラル(連鎖)発展を促進する
(ワクチン産業ビジョン:項目V p31)

ゴールに向けての課題

- I. 各年齢層での感染症対策に必要なワクチンの有無とそれらの開発状況・開発の可能性
- II. 国民各年齢層間でのワクチン接種への関心度が大きく異なっている
- III. 小児科医以外への啓発活動の必要性
- IV. 日本の状況に合う接種スケジュールの見直し
- V. 接種率向上のためには接種費用は誰が負担するのが妥当か

各課題の論点案

課題 I

- 各年齢層での感染症対策に必要なワクチンの有無とそれらの開発状況・開発の可能性

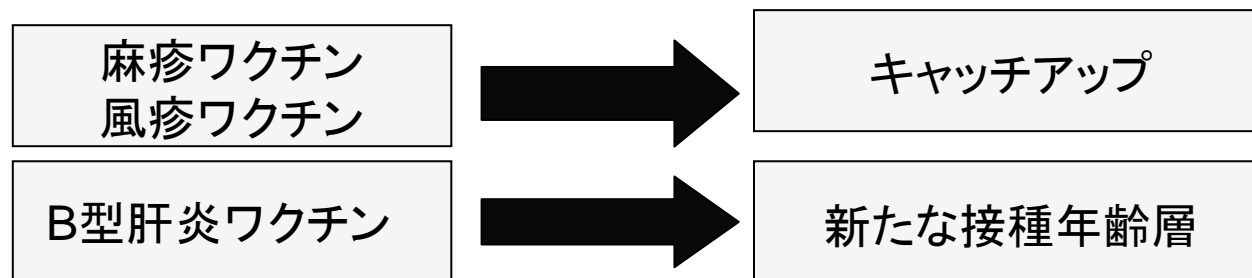
1. 開発・導入における検討課題

- 開発ガイドライン
- 生物製剤基準
- 審査体制

Ex.. HPVワクチン Hib 肺炎球菌

2. 既存ワクチンのキャッチアップ及び新たな接種年齢層の開拓

EX.



課題 II

- 国民各年齢層間でのワクチン接種への関心度が大きく異なっている
 1. 年齢によりどのような感染症リスクにさらされているのかが異なる
 - 年齢に応じた情報提供が必要
 2. 疾病に対する危険性への恐怖心が大きく違う
 - 各年齢層ごとに啓発メッセージを変える必要がある
 3. 情報の入手先医師との接触回数が各年齢層間で大きく異なっている
 - 誰から及びどこから接種機会等の情報を得るか
(例: 医師、地方自治体、マスメディア、市民講演会、学校、インターネット)



正確で十分な情報の発信の必要性

(副反応の情報だけでなく、有効性・安全性、予防接種を受けない場合の疾病の怖さまでも伝える)

課題 Ⅲ

- 小児科医以外への啓発活動の必要性
 1. ワクチン学会と他学会との連携・協力
 2. ワクチン啓発のため各学会の代表が集まり議論する場を創る

課題 IV

- 日本の状況に合う接種スケジュールの見直し
- 我が国での感染症発生状況に基づき接種スケジュールをタイムリーに検討し、実施に移していかないか

課題 V

- 接種率向上のためには接種費用は誰が負担するのが妥当か

(負担責任)

1. 接種者本人
2. 予防接種法による負担
3. 公費負担 (国・地方)
4. 民間保険
5. 企業保険 etc

(負担のあり方に関する検討責任)

1. 接種者本人
2. 国
3. 地方自治体
4. 企業

ワクチン産業のスパイラル(連鎖)発展の促進

ワクチン産業のスパイラル(連鎖)発展のメカニズム

